

美術×英語×SDGs 学習指導案

【実践者】

【関連する SDGs】 (1・12・17)

氏名 竹本万亀 (美術)

工藤よしの (英語)

学校名 北海道釧路北陽高等学校

学年 (人数) 2 学年 (22 名)

実施教科 (領域) 美術・英語



【実施概要】

1. 単元名 (活動名) :

世界とつながるわたしたちの癒し空間 / Our healing spot with the WORLD

2. 単元の目標 (評価規準を意識して設定) :

〈美〉 SDGs との関連を意識した自分たちの癒し空間を表現できる。

〈英〉 SDGs との関連を示して自分たちの癒し空間について既習事項を使い英語で説明できる。

評価規準

知識技能 : 〈美〉創造的な表現をする為に、材料・用具を生かして表現している。

思考・判断・表現 :

〈美〉主題にあった表現方法を工夫し、感性や想像力を働かせ、創造的な表現を追及することができる。

〈英〉話すこと (発表) わかりやすい英語を用いて、自分たちの癒し空間をプレゼンできる。

主体的に学習に取り組む態度 :

〈美〉〈英〉自分たちが癒される空間を創造するだけでなく、自分たちの行動が SDGs 解決の一助となるように主体的に考え、相手によりよく伝わるように表現しようとしている。

3. 単元計画 (全 12 時間)

時	ねらい	学習活動	資料など
1 2	学校の中の癒し空間のあり方について考える。 主体的に学習に取り組む態度 : 〈美〉〈英〉自分たちが癒される空間を創造するだけでなく、自分たちの行動が SDGs 解決の一助となるように主体的に考えようとしている。	・学校内の自分の癒し空間を写真にとって、「もっとこうだったらいいな」を発表する。 ・フェアトレードについて知る。 ・SDGs について知る。 ・RAMACHi オーナーとオンライン交流する。 ・JICA 帯広研修員モデさんの動画を視聴する。	各自の携帯電話 タブレット 1 台 USB ケーブル SDGs 道東マガジンの記事 取材資料 ジュートたわしまらウイの紅茶
3 4 5 6 7 8 9 10	私達の欲しい癒し空間を表現する。 知識技能 : 〈美〉創造的な表現をする為に、材料・用具を生かして表現している。 思考・判断・表現 : 〈美〉主題にあった表現方法を工夫し、感性や想像力を働かせ、創造的な表現を追及することができる。	・私達の欲しい癒し空間をデザインし表現する。 制作するもの 空間デザイン (立体)・メニュー・コースター・看板・空間に置きたいものデザイン (平面)・プレゼン原稿	各自の携帯電話 ミニチュア ぱたぱた企画書 資料 1 ワークシート

11 12	<p>私達の欲しい癒し空間をプレゼンする。</p> <p>思考・判断・表現：〈英〉話すこと（発表）わかりやすい英語を用いて、自分たちの癒し空間をプレゼンできる。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度：</p> <p>〈英〉自分たちが癒される空間や自分たちの行動がSDGs解決の一助となるように主体的に考えたことを、相手によりよく伝わるように表現しようとしている。</p>	<p>・私達の欲しい癒し空間を日本語と英語で発信する。 (日本語と英語でプレゼンテーションを行う)</p>	<p>タブレット2台 USBケーブル</p> <p>審査員 JICA 北海道(帯広) 研修員モデさん、 RAMACHi オーナー、本校 ALT、校長先生</p>
----------	---	---	--

4-1. 本時の展開 (1・2 / 12)			
本時のねらい：学校の中の癒し空間のあり方について考えることができる。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (10分)	<p>1 身近なことから想起する</p> <p>「これは皆さんが思う学校での癒し空間です。誰のでしょう？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当者が挙手 「もっとこうだったらいいなということがありますか？」 ・もっとおしゃれな空間がいいな、お菓子とか飲み物があつたらいいな、静かになればいいな。 ・学校にはできないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式 ・教員と生徒がやりとりしやすい雰囲気をつくる 	<p>生徒から事前に送ってもらった写真を提示</p> <p>板書</p>
展開① (40分)	<p>2 地域に視点を広げる</p> <p>① 「カフェに行きますか？」</p> <p>「いいカフェのイメージは？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着く ・おしゃれ ・行ったことがない <p>② 「私たちのお気に入りのカフェを紹介します。」</p> <p>RAMACHi のオーナーとオンラインをつなぐ</p> <p>「この店をどう思いましたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かっこいい ・おしゃれ ・SDGs を本気で考えて行動してる人が釧路にいるんだな。 ・フェアトレードって何？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員と生徒がやりとりしやすい雰囲気をつくる ・身近な存在に感じさせる ・オーナーが話しやすいようにやりとりをする ・店の中やメニュー等、実物をみせてもらう ・ペア→全体 	<p>板書</p> <p>PPT(RAMACHi の店やオーナーの写真など)</p> <p>ZOOM</p> <p>板書</p>

展開② (30分)	<p>3 世界に視点を広げる</p> <p>①「これがカフェ RAMACHi で売っているたわしです。」</p> <p>「どう思いましたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たわしが世界とつながっているんだな ・たわしを使うことで誰かの役に立つんだな ・たわしを買いたい <p>②「カフェのメニューには、コーヒーや紅茶がありますよね。これは日本で売られている紅茶です。この紅茶の生産地から日本に来ている方に、私たちが事前にインタビューしました。その動画を見てみましょう。」</p> <p>JICA 帯広研修員モデさんにインタビューした動画をみせる。</p> <p>「どう思いましたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変だな ・不公平だ ・かわいそうだな ・何かできないかな 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーナーから取材で聞いたたわしに乗っている想いを話す (SDGs の視点から) ・ペア→全体 <ul style="list-style-type: none"> ・研修員に興味を持たせる <ul style="list-style-type: none"> ・英語でのインタビューのため、生徒が聞き取れた単語などから内容を確認する。 ・ペア→全体 	<p>たわし実物</p> <p>板書</p> <p>マラウイ産の日東紅茶 PPT(モデさんの写真)</p> <p>インタビュー動画 板書</p> <p>板書</p>
展開③ (10分)	<p>4 SDGs と関連させて整理する</p> <p>③「RAMACHi のオーナーさんやモデさんのしていることは SDGs の何番のゴールと関連しているのでしょうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 貧困をなくそう (等価労働) ・10 人や国の不平等をなくそう (不利な立場にある人を守る) ・12 つくる責任つかう責任 (無駄にしないように) ・17 パートナリーシップ (お互い助けあっている) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア→全体 	<p>板書 SDGs カード</p>
まとめ (10分)	<p>5 自分たちのほしい癒し空間について考える。</p> <p>「では学校の中に、自分たちのためだけではなく、世界の誰かの助けになる癒し空間を創造してみましょう。」</p> <p>「どんな思いをのせた空間にしますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おしゃれにしたい ・誰かの役に立ったらいいな ・みんなに喜んで欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 時間分の板書を振り返りながら考えられるようにする ・絵でも文字でもよいことを伝える 	<p>資料1 ワークシート</p>
<p>5-1. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法)</p> <p>学校の中の癒し空間のあり方について考える。(観察/ワークシート)</p> <p>主体的に学習に取り組む態度：</p> <p><美><英>自分たちが癒される空間を創造するだけでなく、自分たちの行動が SDGs 解決の一助となるように主体的に考えようとしている。(観察/ワークシート)</p>			

【自己評価】

<p>苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から自分の意見や考えを發表するのが苦手な生徒なため、少人数クラスでも生徒の意見を引き出すのに思ったより時間がかかった。
<p>改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への事前アンケートから、SDGs という言葉は聞いたことがあるが内容はよく知らない状態にある生徒がいることがわかったため、導入前に 2 時間、SDGs について知識を得てもらおう授業をした。また、その時間内で SDGs への取り組みをしている釧路の大人の 1 人として RAMACHi のオーナー清田さんを紹介し、清田さんがファイヤードンスをする動画を見せ、清田さんに興味を持たせる機会作った。
<p>成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs や外国をより身近に感じさせることができた。 ・SDGs 達成に貢献しようとして実際に行動している大人が地域にいることを生徒が「体験的に」知る機会となった。 ・生徒が世界とつながるわたしたちの癒し空間を主体的に考えるきっかけとなった。具体的なイメージを膨らませたり、アイデアを得たりして制作に対する意欲を高めさせることができた。
<p>学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)</p>	<p>授業後の振り返りより(原文のママ)</p> <p><RAMACHi オーナーについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・店の名前もとてもスタイリッシュで覚えやすく、想いもこもっていてオシャレだなと思った。 ・元々あったものから作り変えるのがすごい。 ・「都会」ではなく「釧路」で素晴らしいことをしていて尊敬しました。 ・フェアトレード！！相手方にも優しい売り買い。 ・都会の方ではフェアトレードのマークのついた商品が多く売っているイメージがあるが、釧路ではどのくらい売っているのだろう。探してみようと思った。 ・安く買えたら嬉しけど、フェアトレードで高くなるなら高くても良いかなと思いました。 ・地産地消も SDGs の一つと気づいた。 ・自分がやろうと思ったらできるんだなと思った。 ・SDGs は小さなことから始めていくといいんだなと思った。 ・清田さんが自分が良いと思った商品しかお店に置かないと言っていて、1つ1つに気持ちが込められていてすごいなと思った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が世界を良くするために行動するきっかけをつくるカフェなんだろうと思う。 ・カフェを作るにあたって、自分たちのことだけじゃなく、お客さんの健康や地球の「持続可能」について考えられていてすごいなと思いました。 <p><JICA 北海道（帯広）研修員モデさんについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで全く知らなかったマラウイのことだけど、スーパーに売っているお茶やたばこなど身近なものの原産国で驚いた。 ・日本とマラウイの関係を知り、自分の知らないところで、自分の知らない国とつながっていたりして、びっくりした。 ・日本の高校生は本当にラッキーだなと思った。 ・国に帰ったら知識を生かして、国での農業の効率の悪さを直したいらしい、絶対良い人。 ・自分だけではなく国のことを考えて行動を起こしている。 ・自分の国を良くしたいという気持ちがすごく伝わった。 ・全ての人が幸せになればいいなと思った。 ・考え方を変えるとこういった新しいことが発見できたり、知れたりするので良いな、と思いました！！ ・地域の人たちとだけでなく、日本と、世界とつながることが SDGs を達成することにつながると思った。 ・現地の人に話をきけて、マラウイをしるだけじゃなくて、日本のありがたみも感じました。 ・もっといろいろな国が協力して、発展途上国のライフラインを整えていけばいいと思った。
<p>授業者による自由記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入前に行った 2 時間は生徒たちに必要だったと全実践を振り返って実感している。授業で SDGs について触れている他教科の教員もいるが、全員がその授業を受けているわけではなく、生徒も日常生活で SDGs を知る機会があるわけでもない。生徒の実態を把握してできる限りスモールステップで実践を行うことが欠かせない。また、生徒とできるだけオーセンティックな人やものと生徒を出会わせることで、生徒の「想像力」、「表現力」を刺激するのだと実感した。

4-2. 本時の展開 (3・4, 5・6, 7・8, 9・10/12)			
本時のねらい：私達の欲しい癒し空間を表現する。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	1 単元目標を確認し、制作の見通しを持つ 「単元目標を確認しましょう。」 「制作時間はあと〇〇時間です。モデさんや RAMACHi のオーナーさん、校長先生などにみなさんの考える世界とつながるいやし空間を発表する機会は 11 月 16 日に設定しています。制作の見通しを班で確認しましょう。」	スクリーンに目標を表示する。	パワーポイント (スクリーン、プロジェクター、タブレット)
展開 (85分)	2 私達の欲しい癒し空間を制作する ・空間デザイン (立体) ・メニュー、コースター、看板、空間に置きたいものデザイン (平面) 材料： 画用紙、厚紙、アクリル板、描画材料ほか ※適宜机間巡視をして技術指導を行ったり、生徒が作品に込める思いなど聞き取る。	スクリーンに前時板書を常に表示する。SDGs17 のゴールを掲示する。作品例やデザインの本、フェアトレード商品を置いたり、マラウイ産日東紅茶・RAMACHi 商品などを実際に食し、生徒の発想を刺激する。 3・4 時間目は主にワークシートを、5・6、7・8、9・10 時間目は立体物や平面物の制作・プレゼン原稿作りを行うように指示する。スクリーンに目標を表示する。	資料 1 ワークシート写真 (スクリーン、プロジェクター、タブレット) 見本 本など フェアトレード商品 マラウイ産日当紅茶 RAMACHi 商品 (地元素材でつくられたビスコッティ)
まとめ (10分)	3 本時を振り返り次時の見通しを確認し、片付けを行う 「制作しているものと単元目標の方向性が整っているかを確認しましょう。」 「制作時間はあと〇〇時間です。モデさんや RAMACHi のオーナーさん、校長先生などにみなさんの考える世界とつながるいやし空間を発表する機会は 11 月 16 日に設定しています。次回の制作の見通しを班で確認しましょう。」		資料 2 プレゼン原稿 パワーポイント (スクリーン、プロジェクター、タブレット)
5-2. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法)			
私達の欲しい癒し空間を表現している。(観察/ワークシート/作品)			
←知識技能：〈美〉創造的な表現をする為に、材料・用具を生かして表現している。			
←思考・判断・表現：			
〈美〉主題にあった表現方法を工夫し、感性や想像力を働かせ、創造的な表現を迫及することができる。			

【自己評価】

苦勞した点	<ul style="list-style-type: none">・先を見通した作業の段取りをするまでに時間のかかるチームがあり、随時働きかけをした。・高校生のワクチン接種の時期と制作授業の実施時期が重なり、毎時間の欠席数が増加した。そのため、チームで作業することがより困難となり、発表までの期間で生徒達が達成感を得られる状況にすることが難しかった。・計画した時数が生徒の制作スピードにあっていなかったため、作品制作もスピーチ原稿作りも急がせる場面が多くなってしまった。
改善点	<ul style="list-style-type: none">・チームの人数を3名程度にしぼる。個々がより主体的に参加できるようにする。・作品制作においてもスピーチ原稿作りにおいてももう少し時間をかけてじっくり向き合わせたかった。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none">・わたしたちの癒し空間をイメージし、制作につなげることができた。・フェアトレード商品やマラウイ紅茶などを実際に手に取ることで、身の回りにあるSDGsとの関連に興味を持つきっかけとすることができた。・当初平面図を考えていたが、立体物をつくらせることで、生徒がよりイメージしやすい活動となり表現の幅を広げさせることができた。
授業者による自由記述	<p>・「わたしたちの癒し空間」に対しての思いはのびのびとイメージしている様子がみられたが、SDGsとの関連をイメージする作業は、表面的な部分にとどまっている状況であった。その原因は、十分な時間がとれなかったこと、生徒達が調べたくなるような働きかけが十分できなかったこと、生徒が想像以上に調べる方法に慣れていなかったことが考えられる。今後、どうすれば生徒達が主体的に情報を集め、イメージする作業に深みを持たせられるのかを模索したい。</p>

4-3. 本時の展開 (11・12/12)

本時のねらい：私達の欲しい癒し空間をプレゼンする。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)																		
導入 (5分)	1 本時の流れについて見通しを持つ ・発表順番は前もって決めておく <table border="1" data-bbox="344 468 824 697"> <thead> <tr> <th></th> <th>日本語プレゼン</th> <th>英語プレゼン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 回目</td> <td>2 班</td> <td>1 班</td> </tr> <tr> <td>2 回目</td> <td>3 班</td> <td>2 班</td> </tr> <tr> <td>3 回目</td> <td>4 班</td> <td>3 班</td> </tr> <tr> <td>4 回目</td> <td>5 班</td> <td>4 班</td> </tr> <tr> <td>5 回目</td> <td>1 班</td> <td>5 班</td> </tr> </tbody> </table>		日本語プレゼン	英語プレゼン	1 回目	2 班	1 班	2 回目	3 班	2 班	3 回目	4 班	3 班	4 回目	5 班	4 班	5 回目	1 班	5 班	スクリーンに本時の流れを表示する。 時間が限られた中で全員が精一杯プレゼンできるように時間を意識して行動するように伝える。	パワーポイント (プロジェクター、タブレット)
	日本語プレゼン	英語プレゼン																			
1 回目	2 班	1 班																			
2 回目	3 班	2 班																			
3 回目	4 班	3 班																			
4 回目	5 班	4 班																			
5 回目	1 班	5 班																			
展開 1 (45分)	2 グループごとに発表の練習をする 「プレゼンで大切なことは伝えたい気持ちとチームワークです。できるだけアイコンタクトをとり、聞き手を意識して話しましょう。また、自分以外が話している時もありづちをうって仲間をサポートしましょう。」 「練習でお互いに良いところを見つけてまねしましょう。」 ・練習時間約 20 分 3 リハーサルを行う 「本番の雰囲気を経験しましょう。そのほかの班はお互いに見あう等して練習を続けてください。」 ・日本語、英語のプレゼン場所で各班 4 分程度のリハーサル	ティミー先生(ALT) : 机間巡視 竹本: タイムキーパー、会場設営 工藤: プレゼン方法伝授 ティミー先生: 机間巡視 竹本: 日本語プレゼン進行 工藤: 英語プレゼン進行	タイマー 校内で癒し空間に選んだ場所の写真 制作した物 SDGs カード 5 セット タイマー 校内で癒し空間に選んだ場所の写真 制作した物																		
展開 2 (45分)	4 本番を行う 「これからプレゼンテーションを行います。」 「評価者の皆さん、プレゼンテーションをきいている生徒の皆さん、お手元の評価シートに記入しながらおききください。ただし、良いプレゼンテーションには良いリスナーが欠かせません。うなずきや表情でプレゼンターを応援してください。」 「Be a good listener.」 日本語プレゼンテーション: LL 教室 英語プレゼンテーション: LL 準備室 各班発表の後 「評価者の皆さん、プレゼンテーションに対する質問やコメントを 1 分程度でお願いします。」 * 日本語プレゼンテーション評価は RAMACHi オーナー、地方情報誌編集者清水さん、校長先生が行う * LL 準備室は Zoom でモデさんとつなぎ、英語	竹本: 日本語プレゼン進行 工藤: 英語プレゼン進行 ティミー先生: 英語プレゼンテーション評価 ・LL 教室は広いため制作した物をタブレットを使用して投影 ・教員はタイムキーパーとして時間をコントロールする	タイマー 校内で癒し空間に選んだ場所の写真 制作した物 タブレット 2 台 プロジェクター 資料 3 評価表 資料 4 審査用紙																		

<p>まとめ (5分)</p>	<p>プレゼンテーション評価はモデさんとティミー先生が行う 「生徒の皆さん、各グループ1人ずつ質問やコメントを30秒程度でお願いします。」</p> <p>「生徒の皆さんは今日のプレゼンテーションで頑張ったこと、出来たこと、わかったこと、授業の感想等を振り返りシートに書きましょう。」 「審査員の皆さんは評価シートの各班へのコメント等を仕上げてくださいようお願いします。」 謝辞</p>	<p>工藤：モデさんとのZOOM接続を終了する 竹本：LL教室で指示</p>	
<p>5-3. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） 私達の欲しい癒し空間をプレゼンしている。（プレゼン）</p> <p>←思考・判断・表現：〈英〉話すこと（発表）わかりやすい英語を用いて、自分たちの癒し空間をプレゼンできる。</p>			

協力して下さった方々

カフェ RAMACHi オーナー清田尚恵様

道東の未来を灯すSDGs マガジン tomosu（トモス）編集長 清水たつや様

JICA 北海道（帯広）研修員 モデ様

本校 ALT ティミー・フェラー先生

JICA 北海道/ほっかいどう地球ひろば職員のみなさま

【自己評価】

<p>苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサルや本番の日本語版発表と英語版発表の時間調整。 ・LL教室がPC固定の机なので、直に鑑賞できるような作品を置くスペースの確保が困難だった。
<p>改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使ってスクリーンに映し出したが見づらさもあった。 ・タイマーで随時時間を確認したが、時間が押しした。ゆとりを持った時間設定が必要である。 ・一番重要な評価者と発表者のやりとりの時間が短かった。評価者個々のコメントの時間はゆとりを持って設定する。評価者が思いを生徒に十分伝えられなかったという状況であったため、事後2時間設けてあらためてRAMACHiオーナー清田さんと道東の未来を灯すSDGs マガジン tomosu（トモス）編集長清水さんにご来校いただき、お話していただく機会をつくった。生徒は評価者のコメントの意味をより深く理解し、SDGsや地域についてさらに学びを深めた。

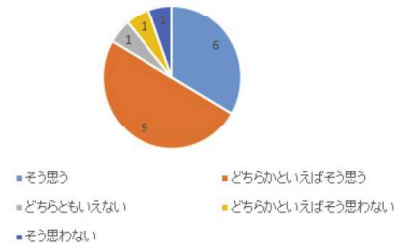
<p>成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいクラスにも慣れ、今後の進路活動に生かすことも想定されるため、2年生の9月から11月にかけて行ったこの実践は適切な時期あったと考えられる。 ・評価者から直に感想や助言をいただけたことで、生徒が、自分たちで考えたこと、形にした物に価値があると実感することができた。
<p>学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)</p>	<p>実践後のアンケートより(原文のママ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンを含めた、しかも英語の要素を加えた授業、というのが新鮮すぎて、色々とまどったり、わからない部分があったりしたが、とても良い経験になったな、と強く思いました。メニューを考えた時に、少し曖昧な部分があったまま作り始めてしまったため、清水さんなどにツッコまれた時には、「もう少し作り込みたかったな…!」と思いました...くやしい...SDGsについて考えながら、皆がリラックスできるようなカフェをデザインといった活動は、様々な方向について考える力が身につけられて、将来になにか役立たせたいです。 ・授業の中で学ぶ内容が被るものもあるので他の教科でもしてみたい。 ・たまにで良いと思った。(やり過ぎると大変そうだから。) ・地球についてたくさん考えさせられた。いろんな人がいるんだとびっくりしたし、地球のために動いている人もたくさんいるんだなど知ることができた。授業前よりもSDGsの理解を深められたと思う。 ・自分の少しの行動で将来を変えたいと思った。世界の人々と意見を交流してよりよい社会にしたいと思った。自分のできることからでいいから行動していこうと思った。 ・制作の時間が少し短いと感じた。英語とからめる必要がなかったと思う。 ・英語は苦手だけど美術は好きみたいな反対なのが合致して、美術まで嫌になりそうだったけど、SDGsで自分の思っていることを伝える難しさもあったけど、言語化するのは少し楽しかった ・この授業は選択でなく、全校生徒に受けてほしい!! すごく考え方が変わりました!!

生徒アンケート結果

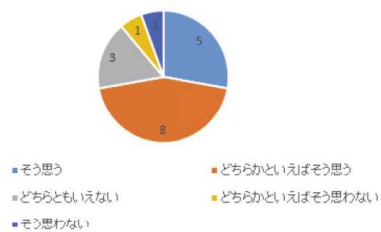
<事前>c. 今回の教科横断の授業が楽しみだ



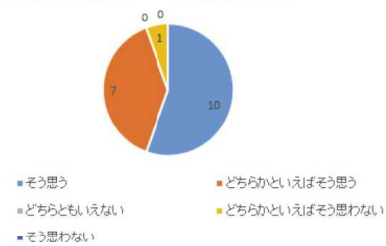
<事後>c. 今回の教科横断の授業が楽しかった



<事前>d. 授業テーマが面白そうだ



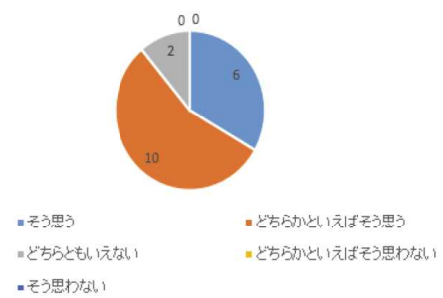
<事後>d. 授業テーマが面白かった



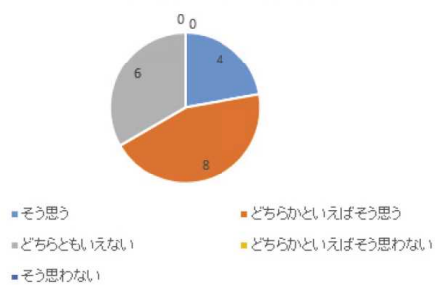
<事前>f. SDGsについて知っている



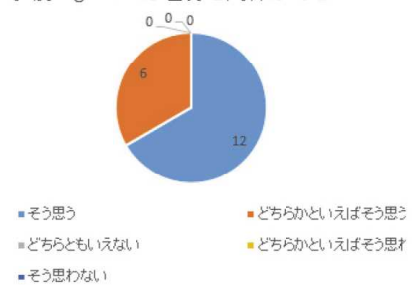
<事後>f. SDGsについて知っている



<事前>g. SDGsは自分と関係がある

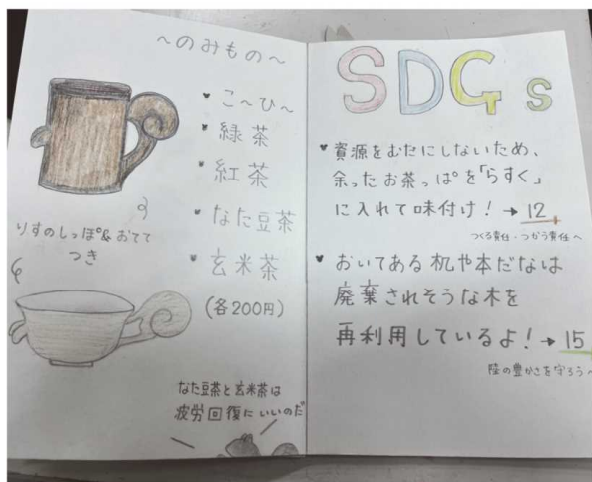


<事後>g. SDGsは自分と関係がある



<p>授業者による自由記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程上、教科横断をするにはパートナーシップが重要。
<p>学校内外で SDGs 学習・授業実践を広める取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制作物を廊下に展示し、授業をうけた生徒以外の人々の目に触れられるようにした。 ・学校外の教員研修会で実践、作品を紹介した。 ・3社の新聞に今回の実践を掲載していただいた。 釧路新聞(令和3年11月17日) 北海道新聞夕刊(令和3年11月24日) 北海道通信(令和3年11月24日) ※欄外に添付 ・本校3年生選択B(英語会話)の「手紙やメールを書く」活動において、SDGsへの理解を深めさせつつ、導入で使用したモデさんの動画を視聴させた。その後、「モデさんに応援するメッセージを送ろう」と生徒はクリスマスカードを作成し、JICA 帯広を通してモデさんに届けていただいた。

実際の生徒の作品



OSOは、前年の大きさが18%の大型の雄。現場に残った体毛などのDNA鑑定から、被害の大半はOSO18によるとみられている。これまでの被害では、捕食した牛を隠す行為がなく、餌としての執着が希薄とみられ、傷つけるだけのケースも多い。襲撃は夜間と思われ、箱わなに対する警戒心が強く、移動経路も不明とされる。

被書を受け両町や関係機関は、両町内で最大約20基の箱わなや、音と光が出る威嚇装置などを設置したほ

カ
ドローンによる設置
「シニアの地方に作し
ヒューマンリソースをばらばらしたため
1E4
(2)

OSOは、前年の大きさが18%の大型の雄。現場に残った体毛などのDNA鑑定から、被害の大半はOSO18によるとみられている。これまでの被害では、捕食した牛を隠す行為がなく、餌としての執着が希薄とみられ、傷つけるだけのケースも多い。襲撃は夜間と思われ、箱わなに対する警戒心が強く、移動経路も不明とされる。

被書を受け両町や関係機関は、両町内で最大約20基の箱わなや、音と光が出る威嚇装置などを設置したほ

別対応

談室を開設

が減少する中、ウェブ相談が可能な体制を整えることで顧客との接点を拡大し、多様化するニーズに応える。

お客様相談室は、本店営業部(釧路市北大通8)の黒金町側入り口の現金自動預払機(ATM)2台を撤



ウェブ相談にも対応できる

SDGs意識しカフエ

釧路北陽高 生徒考案、授業で発表

釧路北陽高校(上野秀俊校長)で16日、美術と英語教科が連携した授業「美術×英語×SDGs」が開かれた。2年生22人が5グループに分かれ、「世界とつながるわたしたちの癒やし空間」と題し、校内にSD

Gs(持続可能な開発目標)の17目標を取り入れたカフエの設置を考案し、英語と日本語で発表した。同授業は今年度からの同校初の取り組み。生徒は10月から2教科の連携授業で癒やしの空間を選定し、独

この日は、レイアウトの模型や看板などのイラストを示し、生徒たちが癒やしの場所やカフエのコンセプトなどを日本語と英語で発表。オンラインでJICA北海道センター(帯広)と結び、清田さんが来校し、上野校長からも講評した。

このうち「落ち着いた雰囲気のカフェ」をテーマとしたグループは、1階ステップグラス前に統一感あるデザインで木材を使用するカフエを提案。店名は世界中の人



レイアウトの模型やSDGsの目標に該当する示しながら英語で発表する生徒

の永遠の幸せを願って「ENTERNITY(エタニティ)」とし、店内には「酸化素削減のため植物を置き、メニューは地産地消を考えて地産の牛乳を使うチーズケーキのこだわりも見せ、SDGsの目標すべてに貢献できるとした。清田さんは「木材は倒木を

使用するなど、より細かく考えた方がいい」などとアドバイスした。

参加した平山瑠菜さんは動物などを身近なデザインに取り入れたカフエを提案。「実現できたらいいなと思う。今後もSDGsを意識し買いたい」と笑顔を見せた。(嶋守善一)

SDGs主題の空間デザイン

模範などを使い、SDGsを軸とする空間の構築を発表する釧路北陽高の2年生たち



釧路北陽高生 日本語、英語で発表

このうち第3班は、教室3個分ほどの広さがあるものの、普段使われていない中庭に着目した。班で作った模範を基に、タンチョウをイメージしたデザインの椅子を設けるなどして「癒やしの空間」を生み出すと説明。プラスチックごみを再利用して椅子を作ることでSDGsが掲げる環境保護などにつなげるとした。

国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」を主題とした空間を釧路北陽高の生徒がデザインし、発表する会が同校で初めて開かれた。

共有が り大切に

16日、同校で公開も園から4人が参加。協議を通じ、授業力の向

の道徳性を育むことの重要性を挙げ、研究協議での多くの意見を求めた。事前配信した公開授業では、1年1組で網村教諭が読み物教材「はしの上のおかみ」を活用し「温かい心で親切」の内容項目に

「親切にしたりされたりしたことはある」という経験を振り返る事前アンケートから、親切に看做させることで「親切に看做される」という思いを提示した。

「親切にしたりされたりしたことはある」という経験を振り返る事前アンケートから、親切に看做させることで「親切に看做される」という思いを提示した。

や、ロイロノートの活用を工夫することで、多くの意見をとり上げられるようになるなどの指摘もあった。

り、店舗模型や看板イラスト等を作成したほか、英語のプレゼンテーション原稿を用意して準備を進めた。

初的美術・英語連携授業 創造的な表現力等育成

釧路北陽高 “癒し空間” 考える

【釧路発】釧路北陽高校(上野秀俊校長)は、同校初の取組となる美術・英語の連携授業を展開し、創造的な表現力、英語プレゼンテーション能力を育てている。美術を選択している2年生22人が受講し、全10時間単元「世界とつながるわたしたちの癒し空間」を学習。生徒は課題「校内に設置したい、SDGs(持続可能な開発目標)と関連のある癒し空間を考える」の解決に向け、フェアトレードや空間デザインについて学んだほか、英語でのプレゼンテーションに向けた準備を進めた。16日には

【釧路発】釧路鶴野支度高等学校(北嶋公博校長)は12日、同校で高等部、鶴野フェスタ「日ごろの学習成果披露ステージ発表や食品等販売」を開催した。ステージ発表や各学科の作業体験のほか、作業学習で製造・制作した食品や食器、木工品などを販売し、日ごろの学習の成果を披露した。

日ごろの学習成果披露 ステージ発表や食品等販売

【釧路発】釧路鶴野支度高等学校(北嶋公博校長)は12日、同校で高等部、鶴野フェスタ「日ごろの学習成果披露ステージ発表や食品等販売」を開催した。ステージ発表や各学科の作業体験のほか、作業学習で製造・制作した食品や食器、木工品などを販売し、日ごろの学習の成果を披露した。



上野校長は「いろいろな要素が重なって広がりのある学習が展開できた。SDGsを関連づけて学ぶことで自分と世界がつながっているのを感じられたのでは」と話した。

トした。生徒たちは、緊急事態宣言に伴い中止となった員学旅行の代わりに計画した「いつか実現したい」をテーマに、自分たちが書いたメッセージをまとめた冊子を作成し、展示販売を行った。冊子には、自分たちの思いや願いを込めて書いたメッセージが盛り込まれている。また、冊子の制作や展示販売を通じて、自分たちの思いや願いを伝える機会を得た。

資料 1

書籍アイディアスケッチ	講師氏名
コースターアイディアスケッチ	講師氏名

メニューアイディアスケッチ	講師氏名
---------------	------

空間デザイン アイディアスケッチ	講師氏名
------------------	------

空間に添きたいもの アイディアスケッチ	講師氏名
---------------------	------

①

私たちの班が考えた世界とつながる癒やし空間のテーマは

_____ です。

SDGs の ()番 _____ と

()番 _____ と

()番 _____ と

()番 _____

に貢献できると考えています。

②

カフェの名前(_____)には _____ には

_____ と

いう想いを込めました。

看板をこのようにデザインしました。コースターはこのようにデザインしました。

これは

を意味しています。

これは

を意味しています。

③

私たちは学校のここを癒やし空間にリニューアルすることを提案します。

ここは()です。

私たちはこのような空間にデザインしました。

一番のこだわりは()です。

からです。

④

その他にも()や

()にもこだわっています。

()は

からです。

()は

からです。

SDGs の()番 _____ や

SDGs の()番 _____ に

貢献できます。

⑤

また、このカフェのメニューをこのようにしたいと考えています。

一番のおすすめは

()で、

にこだわりました。

他にも()がおすすめです。

だからです。

SDGs の()番 _____ や

SDGs の()番 _____ に

貢献できます。

⑥

このように、

テーマを()

とした(店名)は、

SDG's の()番 _____ と

()番 _____ と

()番 _____ と

()番 _____

に貢献できると確信しています。

ご清澄ありがとうございました。

①

The theme of our healing spot with the WORLD is

_____.

We target SDG No.() _____,

No.() _____,

No.() _____,

and No.() _____.

②

(_____), the name of our Café gives

a feeling of _____.

名詞

(看板を見せて) This is a signboard of our café. (コースターを見せて) This is a coaster.

(看板の絵を指さして) It means _____.

And (コースターの絵を指さして) it means _____.

③

(学校内の場所の写真を見せて) We suggest that we redesign this place as a healing spot.

(学校内の場所の写真を見せたまま) This is _____.

We designed this space like this.

(_____) is what we were most

particular about. That is because

_____.

文 主語(～は/～が) 動詞(～だ/好きだ/～「う」)

④

In addition,

(_____) is special.

About (_____),

It / They _____

←(_____)がひとつなら It(それ)、2つ以上なら They(それら)を選んで○で囲む。これが主語になる。次にくるのは動詞。

It should help achieve SDG No.(_____),

_____ and

SDG No.(_____), _____.

⑤

Then, this is the menu of our café.

We recommend () the most

because _____.

文 主語(～は/～が) 動詞(～だ/好きだ/～「う」)

You should also try ().

That is because

_____.

文 主語(～は/～が) 動詞(～だ/好きだ/～「う」)

It should help achieve SDG No.(),

_____ and

SDG No.(), _____.

⑥

In these ways, (店名), our healing café, can

contribute to the achievement(s) of

SDG No.() _____,

No.() _____,

No.() _____,

and No.() _____.

Thank you for listening.

仲間のプレゼンのいいところ、素敵なところを評価しましょう。

班	テーマ	話す早さ・アイコンタクト	内容	パッション	コメント	評価者
班	テーマ	話す早さ・アイコンタクト	内容	パッション	コメント	評価者
班	テーマ	話す早さ・アイコンタクト	内容	パッション	コメント	評価者

評価の仕方について

<話す早さ・アイコンタクト> **目的** 聞き手を意識してプレゼンする

A: 話す早さが適当であり、アイコンタクトをしっかりと意識できている

B: 話す早さ、アイコンタクトのどちらかに課題がある

C: 話す早さにもアイコンタクトにも課題がある

<内容> **目的** SDGsとの関連や癒やし空間の魅力を説明する

A: SDGsとの関連が明確で、癒やし空間の魅力が十分説明されている

B: SDGsとの関連の明確さ、癒やし空間の魅力の説明のどちらかに課題がある

C: SDGsとの関連が明確とはいえず、癒やし空間の魅力も十分に説明されていない

<パッション(熱意)> **目的** 作品について熱意を持ってプレゼンする

A: 熱意が十分につたわる

B: 熱意は伝わる

C: 熱意が感じられない

資料 4 審査用紙

班	テーマ	話す早さ・アイコンタクト	内容	パッション	コメント	評価者
班	テーマ	話す早さ・アイコンタクト	内容	パッション	コメント	評価者
班	テーマ	話す早さ・アイコンタクト	内容	パッション	コメント	評価者

評価の仕方について

<話す早さ・アイコンタクト> **目的** 聞き手を意識してプレゼンする <内容> **目的** SDGsとの関連や癒やし空間の魅力を説明する <パッション(熱意)> **目的** 作品について熱意を持ってプレゼンする

A: 話す早さが適当であり、アイコンタクトをしっかりと意識できている

B: 話す早さ、アイコンタクトのどちらかに課題がある

C: 話す早さにもアイコンタクトにも課題がある

A: SDGsとの関連が明確で、癒やし空間の魅力が十分説明されている

B: SDGsとの関連の明確さ、癒やし空間の魅力の説明のどちらかに課題がある

C: 熱意が感じられない

C: SDGsとの関連が明確とはいえず、癒やし空間の魅力も十分に説明されて

いない

Judge Sheet

Group No.	theme	delivery	content	passion	comments	Your name
Group No.	theme	delivery	content	passion	comments	Your name

CRITERIA

<delivery> to make a presentation for the audience

A: Great, appropriate pace in speaking and good eye contact

B: Good, good enough pace in speaking, try more eye contact

C: OK, but try to speak more slowly and try more eye contact

<content> to tell about relations to SDGs and originalities of the space

A: Great, the relation to SDGs and the originality of the space are clear

B: Good, but the relation to SDGs and the originality of the space are not so clear.

C: OK, but the relation to SDGs and the originality of the space are not clear.

<passion> to make a presentation passionately

A: Great, with a lot of passion

B: Good, with enough passion

C: OK, but needs more passion